

百日咳を知っていますか？

こどもの病気というイメージが強い「百日咳」ですが、近年成人の患者が増加傾向にあります。百日せきワクチンの免疫効果は4~12年で減弱し、予防接種を受けていても感染することがあります。また長引く咳などの特有の症状が見られず、周囲に感染させていることがあります。

百日咳は、新生児・乳児期に感染すると重症化しやすく、特に生後6ヶ月未満で発症すると命に関わることもある怖い病気です。成人の患者から、新生児・乳児へ感染することが問題となっています。



神戸市内の医療機関からも、0歳児が感染し、入院した事例の報告があります。0歳児の症状がみられる前に家族(両親、兄弟など)に長引く咳がみられていました。

百日咳について

- ★**症状**：風邪のような症状(鼻汁、結膜充血)が1~2週間つづく
その後、発作性の咳がみられる(夜間に出現することが多い)
咳が5~10回連続した(コンコンコン)後、吸気した時に笛声音(ヒュ〜)が生じる
※成人(ワクチン既接種者)では、咳が長期に渡って持続するが、上記のような特徴的な咳はあまり見られない
- ★**特徴**：他者への感染力は、感染初期(風邪のような症状がみられる頃)が最も強い
抗菌薬治療開始後3~7日で感染力はなくなる
- ★**感染してから症状がでるまでの期間**：7~10日 ★**感染経路**：飛沫感染、接触感染

学校保健安全法施行規則では、特有の咳が消失するまで、または5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで、出席停止となります。

咳がみられる時は、咳エチケットをこころがけましょう！

- ★咳・くしゃみをするとき、
マスクをつける(口・鼻を覆う)
＜マスクがない時＞
ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う
＜とっさの時＞
袖で口・鼻を覆う
- ★まわりの人から顔をそむけましょう
- ★2メートル以上はなれましょう

百日咳は、過去には施設内での集団発生事例の報告もあります。周囲に百日咳と診断された人がいる場合は、自身の健康状態に気をつけ、症状がみられた場合は、早めに受診しましょう。

